

令和3年度第4回宮城県職業能力開発審議会議事録

日 時：令和4年3月23日（水曜日）午前10時30分から午前11時40分まで

場 所：宮城県行政庁舎4階 庁議室

出席委員：《オンライン》佐竹委員，西内委員，後藤委員，谷垣委員，吉野委員

《対 面》小野委員，熊谷委員，小林委員，田邊委員，内藤特別委員

発言者	内容
渋谷総括	<p>本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第4回宮城県職業能力開発審議会を開催します。司会を務めます産業人材対策課の渋谷でございます。どうぞよろしくお願いたします。本審議会につきましても、対面とオンラインの併用で行うこととしております。オンラインで出席されている委員におかれましては、ご発言の時以外は、マイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。本日の会議は、お手元の会議議題により、進行させていただきますと存じます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、経済商工観光部副部長の大庭からご挨拶を申し上げます。</p>
大庭副部長	<p>宮城県経済商工観光部副部長の大庭でございます。</p> <p>新型コロナウイルス対応の関係で対面とオンラインのハイブリッド方式による開催とさせていただきますので、着座での挨拶にて失礼させていただきます。</p> <p>本日はお忙しい中、宮城県職業能力開発審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。また今年度は、第11次宮城県職業能力開発計画について、計3回に渡るご審議を経て、今年1月に答申をいただき、同月に当計画を策定することができました。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。</p> <p>さて、高等技術専門校の再編整備につきましては、令和2年11月に当審議会でご議論いただき、令和3年3月に宮城県立高等技術専門校再編整備基本計画を策定したところでございます。今年度は、当基本計画の具体化に向けて、業界団体等の皆様からご意見等いただきながら、新設校の人材育成目標、訓練カリキュラム、施設規模、整備スケジュールなどについて検討して参りました。本日はこれらの検討結果をもとに策定した宮城県立高等技術専門校整備実施計画の案について、ご意見をいただくことにしております。</p> <p>なお、来年度におきましては、当実施計画等を踏まえ、再編整備事業の設計業務を委託する候補者を選定することとしております。県の新宮城の将来ビジョンでは、ものづくり産業等の発展を主な産業施策の柱としておりますが、今後のものづくり産業を担う人材育成に向けては、高等技術専門校の果たす役割は、今後も大きいものととらえております。委員の皆様におかれましては、引き続きのご理解ご協力とともに、本審議会での忌憚のないご意見をお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。</p>
渋谷総括	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご出席の委員のご紹介につきましては、資料1の委員名簿にてかえさせていただきますのでよろしくお願いたします。本日は齋藤委員，野口委員におかれましては所用により欠席のご連絡をいただいております。また、吉野委員が遅れて出席されるとご連絡をいただいております。</p> <p>なお、各高等技術専門校及び宮城障害者職業能力開発校の校長がオンラインで出席いたしております。</p> <p>審議会の開催に当たりまして、定足数のご報告をいたします。職業能力開発審議会条例第5条第2項により、審議会の会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことはできないとされております。特別委員を除きました委員総数11名のうち、本日の出席者は8名で</p>

	<p>ございますので、職業能力開発審議会条例第5条第2項の定足数を満たしており、会議は有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>本審議会につきましては、情報公開条例第19条の規定により、会議は原則公開するものとされております。また、議題に非開示情報が含まれていないことから、公開するものとして進めて参ります。</p> <p>事務局からお願いでございますが、ご発言は記録の関係上、挙手をいただき、係りの者がマイクをお渡ししますので、マイクを通してご発言いただきますようお願いいたします。また、オンラインで出席されている委員の方につきましては、ご発言の時に挙手など合図をしていただきまして、ミュートを解除してご発言をお願いしたいと存じます。</p> <p>それでは、これ以降の議題の進行は田邊会長をお願いいたします。田邊会長どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
田邊会長	<p>はい。田邊でございます。どうぞ、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは早速議題に入ります。「2 議題 宮城県立高等技術専門校整備実施計画（案）について」事務局から説明があります。</p>
佐藤課長	<p>宮城県産業人材対策課の佐藤と申します。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、「宮城県立高等技術専門校整備実施計画（案）」についてご説明申し上げます。実施計画案の表紙をおめくりいただきまして、目次をご覧くださいと思います。ローマ数字のⅠでは、「はじめに」として「基本計画」策定の背景や、本「実施計画」策定の目的を記載しております。ローマ数字のⅡでは、基本計画の要旨を、ローマ数字のⅢでは、新設校の訓練内容や訓練設備機器を記載しております。また、ローマ数字のⅣでは、新設校の整備方針について、1の「施設整備の基本的な考え方」から7の「整備実施スケジュール」まで記載しており、最後に資料を1から28まで添付しているという構成になっています。</p> <p>それでは、実施計画案の1ページ、ローマ数字Ⅰ、「はじめに」の「1 県立高等技術専門校再編整備基本計画策定の背景」をご覧ください。その2段落目に記載しております県立高等技術専門校の整備のあり方について、「効率的、効果的な校運営の観点から、将来を見据えて、5校を1校に再編し、現在の仙台校敷地に新設する。」などとした、「宮城県立高等技術専門校再編整備基本計画」を、令和3年の3月に作成してございます。</p> <p>次に「2 本整備実施計画策定の目的」については、この実施計画は、再編整備基本計画を具体化するため策定するもので、新設校の訓練内容のほか、整備方針等を示しております。なお、来年度はプロポーザル方式により、新設校の設計業者を選定することとしており、本実施計画は、その際の基礎資料となるものでございます。</p> <p>2ページをご覧ください。ローマ数字のⅡ「再編整備基本計画」の要旨については、記載のとおりでございます。</p> <p>3ページをご覧ください。ローマ数字のⅢ、「訓練内容及び訓練設備機器」の1「訓練内容等」については、次のページの4ページから9ページまで、こちらを別表1として普通課程について、また、10ページ、11ページを、別表2として、短期課程について記載してございます。主なものとして新設する訓練科についてご説明いたします。4ページの別表1（普通課程）をご覧ください。こちらの表は左から訓練科名、訓練期間、訓練内容、主な教科を記載しております。表の上段になります「電子制御技術科」の訓練については、機械加工技術を備えた電子制御技術者として、電子機械産業の幅広い分野で活躍できる人材育成を行うこととしております。就職先としては、産業用ロボット等の製造及び保守点検を行う事業所などを想定しております。6ページをご覧ください。下段の「総合建設技術科」の訓練については、金属加工、型枠、鉄工工事、CAD操作、電気工事等に関する基礎作業として、多種の技能を持つ人材の育成を行うこととしております。就職先としては、鉄工工事や躯体工事関連事業所等を想定しております。11ページをご覧ください。別表2（短期課程）のジョブセレクト科の訓練については、「非正規雇用の方」、「フリーター」等を対象として、短期間に多くの訓練科を経験することで、ものづくり人材としての適性を見極める内容として実施いたします。また、訓練終了後は、特定分野の技能をより深めるため、他の</p>

短期課程や普通課程の訓練への受験を促すほか、基礎作業を学ぶことにより、製造業や建設業の事業所への就職も想定してございます。なお、このジョブセレクト科につきましては、今年度から、仙台校において前倒しで実施しております。4つの訓練科の内容を1コースとして合計2コース、1つはメカニクエレクトリックコース、こちらは自動車整備あるいは電子制御などの内容になります。それからもう1つはアーキテクトコースとしまして、設備工事、塗装、建築製図などのコースになりますが、こちら2コースを実施しましたところ、6名受講いただきまして、そのうち3名が来年度普通課程に入校するということになってございます。それでは実施計画案の3ページ目にお戻りください。1 「訓練内容等」の2段落目になります。現在、白石高等技術専門校で、実施中のプログラムエンジニア科については、宮城障害者職業能力開発校で、身体障害者等を対象とした訓練として、実施することとしており、カリキュラム等については、令和10年度の開設に向けて、関係団体等と調整しながら策定して参ります。また、最後の段落になります。気仙沼地域で実施予定の民間委託によるオフィスビジネス系の訓練については、地元自治体等と協議しながら、こちらも令和10年度の開設に向けて、デジタル技術の習得を目指した訓練内容等を検討して参ります。

「2 訓練設備機器」については、各訓練科の育成目標に応じた訓練を実施するため、時代の変化に即した機器等の整備を積極的に進めて参ります。主な整備機器につきましては、資料11「新築工事一覧」、それから資料12「改修工事訓練科一覧」の配慮事項に記載のとおりでございます。

次に実施計画案の12ページをご覧ください。ローマ数字の、IV「新設校整備方針」の「1 施設整備の基本的な考え方」については5つ掲げてございます。まず、「(1) 機能的かつ安全で使いやすいユニバーサルデザインに配慮」として、若年者や女性、障害者等、すべての人にとってわかりやすく、安全で使いやすい建物を整備することとしております。具体的には、サイン看板の文字を外国語で表記することや、バリアフリー等への対応、授乳室の設置などを想定しております。「(2) 訓練ニーズや社会情勢変化に柔軟に対応」として、新設校を長期間使用することを見据え、社会情勢の変化や、技術革新等に柔軟に対応し、時代の変化に即した訓練の実施に配慮した建物を整備することとしております。「(3) 高い安全性の確保」として、実習などにおける安全性を確保するとともに、災害に強く、学生と職員の避難対応にも配慮した建物を整備することとしております。具体的には、学生等の避難場所としての利用も予定しております大ホールについては、建物の2階以上に設置することなどを想定してございます。「(4) 容易な維持管理とランニングコストの抑制」として、環境負荷の低減や、長期間の使用を見据え、将来的な維持管理及び改修の容易さに配慮した建物を整備することとしております。これは、再エネ、省エネ設備の積極的な導入を想定したものでございます。「(5) 周辺環境との調和」として、騒音、日照等、周辺の住環境との調和に配慮した建物を整備することとしております。

次に、「2 建設地の状況」について、「(1) 所在地」は、現仙台高等技術専門校としております。13ページをご覧ください。「(2) 仙台高等技術専門校の主な施設の現況」、「(3) 都市計画の制限」、「(4) その他の制限等」については記載のとおりでございます。

14ページをご覧ください。ページの中ほどになります。「3 施設の規模・構造等」については、資料10「県立高等技術専門校の建築計画イメージ図」と併せてご覧いただければと思います。「(1) 敷地面積」については、現仙台校の敷地、約39,000㎡となっております。「(2) 新築建物」については、資料の10をご覧くださいまして、真ん中ぐらいに本館がございまして、周りを囲むように、1, 2, 3, 4, 5号館がございまして、それから左にいったいただきまして、8号館（人材開発センター棟）がございまして、これら新築の建物を合計いたしますと延面積が約12,800㎡となっております。「(3) 仮設建築物」については、新築工事期間中、本館にあります職員室等の移転先として建築することを想定してございます。「(4) 改修建物」については、先ほどの資料10で着色しております実習棟の現在の3号館、4号館、新しいものでいきますと6号館、7号館と表示しているものでございます。こちらが対象でございまして、延面積が約5,200㎡となっており、改修の上、令和10年以降も継続して使用することとしております。なお、改修工事としては、

	<p>バリアフリー対応などを予定してございます。実施計画案の15ページをご覧ください。</p> <p>「(5) 屋外施設」については、黒丸の1つ目「共用・管理」、2つ目「訓練関係」に記載の整備を予定しております。「(6) 解体建物」については、現3号館と、現4号館以外は、すべて解体する予定でございます。「(7) 電気設備」、16ページをおめぐりいただきまして、「(8) 給排水衛生設備」、「(9) 空気調和設備及び昇降設備」については、記載の整備を予定しております。</p> <p>次に、「4 具体的な整備イメージ」の「(1) 整備方針イメージ」については、各施設に共通する事項を記載しております。例えば、「①建物配置等」については、黒丸の1つ目にありますように、現在の仙台校は雨天時の移動に配慮した施設となっていないということがありますので、新設校におきましては、雨に濡れずに各棟間を移動できる配置としたいと考えております。17ページをご覧ください。「②動線」については、黒丸の一つ目にありますように、車での来校者が多いことに配慮し、歩行者の安全を確保することとしてございます。「(2) 各棟の整備イメージ」については、17ページから20ページにかけて各訓練科、各棟について配慮が必要な主な項目について記載してございます。例えば18ページをご覧ください。18ページ一番上の「本館」の黒丸の1つ目にあります職員玄関用ロビーに作品展示コーナーを設け、訓練生が製作した製品の展示の場とするとともに、来校者向けに高等技術専門校のPRを図ることとしております。また、ページの下から2つ目の丸になります。「木の家づくり科」の黒丸の3つ目にあります。天井の高さを10m程度とすることで実習場内で2階建ての模擬家屋を建築できるほか、雨天時にも安全に訓練できるよう配慮することとしております。</p> <p>次に20ページをご覧ください。「5 工事期間中の配慮」については、学生等の安全確保や騒音、振動対策等について、十分に配慮することとしております。</p> <p>「6 移設計画等」については、訓練ニーズに適切に応えていくため、工事期間中も仙台高等技術専門校の訓練を中断することなく実施することとしております。今後、新築建物の基本設計が行われることとなりますが、訓練科等の移設が必要となった場合にも、最小限の範囲において行うということとしてございます。なお、解体する現人材開発センターの機能につきましては、白石高等技術専門校の職業能力開発センター棟の利用も含めまして、県職業能力開発協会や関連団体等と協議を進めて参ります。</p> <p>次に21ページをご覧ください。「7 整備実施スケジュール」については、令和4年度にプロポーザル方式により設計事業者を選定し、その後、設計・改修工事を行い、また新築工事を経て、令和10年4月に開校する予定としております。「宮城県立高等技術専門校整備実施計画(案)」についての説明は以上でございます。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>基本的に内容につきましては、前回の答申をベースとした基本計画が反映されている内容になっているかなと思います。また、3ページにも書かれていますように、今後の経済動向や産業・就業構造の変化等に伴い適宜見直していくということで、時代にあった形のことを想定しているのかなと思います。</p> <p>ここで、皆様からご意見をいただければと思うのですが、事務局からの説明について、ご意見、ご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それではですね、せっかくの機会ですので、順番にご意見を伺えればと思っております。名簿順ということで、佐竹委員いかがでしょうか。</p>
佐竹委員	<p>はい。佐竹です。</p> <p>基本計画的なところについては、特段問題はないかなと思います。先ほどの説明の中で、18ページに本館の職員用玄関ロビー等に作品展示コーナーを設けるというフレーズがありました。このような、PRというのも大変必要になってくるだろうと思いますし、また、こういったところに皆さん就職をされているのかということも1つのアピールポイントになってくるかということもあります。</p> <p>それと可能であれば、この学校を利用する人たちの参考になるように、卒業生などともい</p>

	<p>ろいろ意見交換をできるような場を設置していただければいいのかなと思いました。</p> <p>建物の施工等々については問題ないですけども、今後の実用的なところで、そういったところも組み込んでいただければと思います。以上でございます。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>ハードだけでなくソフトの実際の運用面でも、いろんな意味で配慮していただければということですが、事務局の方からいかがでしょうか。</p>
佐藤補佐	<p>はい。産業人材対策課の佐藤でございます。ご意見どうもありがとうございます。</p> <p>作品展示コーナーの関連で、就職先のPR等のお話がありました。併せて、例えばどういところに就職している方が多いのかというPRも含めて考えていきたいと思います。</p> <p>また、卒業生との意見交換会についても非常に重要だと考えてございますので、ソフトの充実ということも併せまして、この計画の進行管理をしていきたいと考えてございます。どうもありがとうございます。</p>
田邊会長	<p>はい。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、西内委員お願いできますでしょうか。</p>
西内委員	<p>私、白石郵便局所属でして、白石高等技術専門校を通りながら通勤をしていたことがありますし、また郵便配達もしたことがあります。学生さんとすれ違うことが結構ありました。そういった学生さんたちがどういった学習を受けて、どういった社会に出て、どういった技術を身につけて生かしているのかというのは、ぜひ聞いてみたいと思いますので、可能であれば、意見交換の場もあつたりすればいいのかなと思いました。以上でございます。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>やはり、いろんな意味で意見交換は必要かなということかと思えますけれども、何か事務局からございますか。</p>
佐藤補佐	<p>はい。ご意見ありがとうございます。</p> <p>おっしゃられたとおり、意見交換の場というのは、非常に重要だと思っております。お話にもありましたユニバーサルデザイン等、あらゆる人に快適に使ってもらえるということも大事だと思いますので、高技専におきましては、訓練生の方にアンケート調査等もしながら、今後の良い高技専づくりということも踏まえながらやっておるところでございます。引き続き、意見交換もしながら、そういったニーズを踏まえて、訓練が実施できるように検討して参りたいと考えてございます。どうもありがとうございます。</p>
田邊会長	<p>はい。よろしいでしょうか。</p> <p>実際に学んでいる学生も含め、あるいは卒業生も含めて、できるだけニーズに合うようなものをつくっていただければというお話だったかと思います。</p> <p>それでは次に、小野委員いかがでしょうか。</p>
小野委員	<p>はい。建築計画のイメージ図を見させていただいたのですが、解体する前と解体後の部分で、運動場が無くなり、駐車場が増えて、現実的な計画なのだろうと思っています。遠くから通ってくる人のための寄宿舎が無いということについては、交通機関を利用してということなのだと思いますが、寄宿舎というのは想定にはなかったのでしょうか。</p>
田邊会長	<p>はい。これは前の基本計画の時に少し議論させていただいたかと思いますが、事務局の方からコメントはございますか。</p>

佐藤補佐	<p>はい。寄宿舎は、今現在使われていないということでございますが、それというのも、なかなか、寄宿舎に入ってくる方がいらっしやらないということで供用を廃止しているというところでございます。基本計画の第5章に学生への支援というものがございます。その中の学生への負担軽減策において、再編により遠方から通われる方がいらっしやるといこともございますので、民間賃貸住宅等を利用する方への住居にかかる費用負担を検討することにしてございまして、実施計画におきましては、寄宿舎の設置は予定していないということでございます。以上でございます。</p>
小野委員	<p>はい。わかりました。ありがとうございます。近所に借りて入居させるという構想もあるということですね。わかりました。ありがとうございます。私からは以上です。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。 それでは次に、熊谷委員からお願いできますか。</p>
熊谷委員	<p>はい。いつもお世話になっております。熊谷です。よろしく申し上げます。 実施計画案の11ページの短期課程のジョブセレクト科というところですが、訓練期間が2～3月×2となっておりますが、これは訓練期間を2回に分けて行うものなのでしょうかということ、内容的には就業基礎Ⅰ、就業基礎Ⅱ、安全衛生などいろいろありますが、短期間でどういった学びをするのでしょうか。また、普通課程の総合建設技術科とどのような違いがあるのでしょうか。</p>
田邊会長	<p>はい。ジョブセレクト科のところですね。まだ、詳細までは決まってないと思いますけども、イメージ等についてご説明いただけますでしょうか。</p>
神所技術補佐	<p>事務局の神所といいます。よろしく申し上げます。 ジョブセレクト科につきましては、非正規雇用の方ですとか、フリーター等の方に対して、ものづくり業等の基礎作業を経験できる機会を提供しまして、自分に合う仕事や技能を見つけることで、安定な就労に移行していただくことを目指している訓練科になってございます。訓練期間としましては、2か月から3か月のコースを年に2回実施するというような取組をしたいというふうに計画しているところでございます。修了後は、より深い技能を求めている方に対しては、普通課程や短期課程等の6か月や1年、2年コースに応募することを推奨して参りたいと思っております。総合建設技術科との違いは、総合建設技術科については、建設業を対象とするということで、対象を少し狭めているような訓練内容になってございますが、ジョブセレクト科については、もう少し広めに考えておりまして、短期間の中で基礎的なところを身につけていただき、自分に合う仕事や作業を見つけさせていただくというところに主眼を置いて作っている訓練科になってございます。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。 名前のとおり、まさに将来どの道を行こうか選択するに際して、基礎的な就業基礎を教えるとともに、本当に基礎的な知識を教えて、将来の選択に役立てるような、そういったイメージになるのでしょうか。はい。いかがでしょうか。</p>
熊谷委員	<p>はい。弊社でも実行委員をさせていただいております富谷の方にある司塾というものが有り、その中で、1日、2日の課程で墨付けをするとか、切込みをするとかを行っているが、そういった感覚で思っていればよろしいでしょうか。</p>
田邊会長	<p>はい。いかがでしょうか。</p>
神所技術補佐	<p>具体的な訓練科の授業内容については、4つの訓練科の訓練内容を1週間ごととか2週間ごとに分けまして、トータル2か月から3か月程度体験してもらおうというような取組をし</p>

	<p>たいと思っております。なので、2週間程度で1つの訓練科の作業を学べる程度の内容になってございます。</p>
田邊会長	<p>はい。何か例えばこういうことも考えられるのではないかとか、もしあれば、アドバイスをいただければありがたいかなと思います。</p>
熊谷委員	<p>今回お伺いしたのは、司塾に対する反応について、宮城県だけでなく東北の方からありますが司塾では、10名から15名ぐらいに納めて一棟建てているのですが、他の興味を持った人達が同じように体験できる機会が他にもないかと言われたときに、連携が取れるといいかと思ってお伺いしました。また、具体的になられましたらアドバイスを頂けたらと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。 確かに、現段階では独立してこういうプログラムということで考えておりますけども、将来的には他の所との連携とかを含めて考えていった方がいいのではないかというご意見かと思いますが、そのように受け止めてよろしいですか。はい。ありがとうございました。 それではですね、次に後藤委員お願ひできますでしょうか。</p>
後藤委員	<p>はい。後藤です。おはようございます。 今回示されました実施計画案は、これまで数回にわたる審議会の話し合いによる成果としてでき上がっており、私としては、大変すばらしいものと思っております。その中で、今後のスケジュールの中に、令和4年度プロポーザル方式による設計事業者選定とあります。企画提案型の入札で、参加される設計会社は大手さんかと思いますが、高等技術専門校なる施設がどのようなところなのか把握できてない会社もあるのではないかと思います。そのようなときに、県として情報の提供はするのか、また、その場合はどの程度までの情報提供するのか、お聞かせ願ひたいと思います。</p>
籾野班長	<p>産業人材対策課の籾野と申します。私からプロポーザルの件についてご説明を申し上げます。今、後藤委員からお話がありましたように、来年度、プロポーザル方式において設計業者の選定作業を行います。選定にあたりましては、建設、土木関係に知見のある方もいらっしゃるし、県の行政関係者も含まれるだろうと想定しております。その方たちに高等技術専門校がどのようなものかということは、当然把握していただいた上で、業者選定をしていただくということになるのですが、一般的にこれまでのプロポーザルの例で申し上げますと、学校の場合は学校の事業概要や、沿革、設立目的など、その学校の教育理念的なところから、実際どういう教育内容を実施していくのかということも、詳細にプロポーザルの資料として提示します。高等技術専門校のプロポーザルにおきましても、事業概要や、今回の実施計画、さらに詳細な高等技術専門校の就職情報等を資料としてつけていく想定でございます。それからプロポーザルにあたりましては、どんな校ができるのかということを実地の方たちにも把握していただく必要があるかと思っておりますので、現地説明会も随所で実施しながら、県民の方の理解を得られるような形で、進めていけたらというふうに想定しているところでございます。以上でございます。</p>
田邊会長	<p>はい。後藤委員いかがでしょうか。</p>
後藤委員	<p>はい。プロポーザル方式というのはややもすると奇抜とか斬新とかにとらわれ過ぎている例を、私も何例か見ております。5校を1校にするということはこれまで何十年に渡り、地域に根差してきたおらが町の訓練所が、泣く泣く4つ消えるわけでありまして、その思いをしっかりと受けとめていただきまして、業者選定の検証のほど、よろしくお願ひをいたしたいと思ひます。以上です。</p>

田邊会長	はい。では、事務局からお願いします。
佐藤課長	<p>はい。すいません。補足になります。</p> <p>まず、このプロポーザルにつきましては、県の中で土木部という部署がありまして、そちらの方で我々と一緒になりながら進めていくということになります。先ほど、プロポーザルの提案する側が大手というお話もありましたが、事業者さんに対しては、当然高等技術専門校がどういうものか、そしてどういうことを目指しているのか、そういった部分を今回の実施計画等も踏まえながら提示して、できるだけ適切な提案をいただきたいということで、いろんな情報を提供していくこととしております。</p> <p>それからもう一つ、今までの例だとプロポーザルの判定委員会という委員会が設置されるということでございます。こちらにつきましては、学識経験者の方あるいは国の建設業者に詳しい方、それから案件で言いますと、例えば、高等技術専門校の現場の者をそういったメンバーに選定するということでございます。ですので、提案していただく側にも、十分に高等技術専門校がどういうものか、どういうものを目指しているのかということを理解いただけるように、我々の方でも情報を出していきたいと思っておりますし、またプロポーザルを選ぶ判定委員会側も、そういった視点がある者などで構成したいと思っております。また、先ほど実施計画の12ページでも新設校の整備方針、基本的な考え方というものをご説明申し上げましたが、機能的で安全で使いやすい、あるいは長期間使用するということもございますので、維持管理やランニングコスト、そういった部分も意識しながら今後も手続きを進めたいと考えております。よろしくお願ひいたします。</p>
田邊会長	はい。後藤委員いかがでしょうか。
後藤委員	はい。結構です。よくわかりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。
田邊会長	<p>よろしくお願ひします。確かに12ページにもデザインはシンプルで機能性を重視というところで、この辺は重要ななと思って、私自身もチェックしていたところございました。それでは、次に小林委員からお願ひできますでしょうか。</p>
小林委員	<p>移設計画等に関しまして、21ページの7行目になりますけれども、「なお、人材開発センターの機能の移設については、白石高等技術専門校の職業能力開発センター棟の利用も含め、職業能力開発協会及び関連団体等との協議を進める。」となっております。現在、当協会としては仙台校に様々な資材、機材等の保管をしてもらっておりますことについて、配慮をお願ひしたいと思っております。かなりの量になりますので、工事が始まりますと、中々入ることも難しくなりますし、白石校の方も結構距離が遠くなりますので、そのあたりのところをご配慮いただければと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。</p>
田邊会長	はい。これについて事務局からお願いします。
籾野班長	<p>はい。人材開発センターの移設等については、現在、職業能力開発協会様の方で、技能検定の関連団体さんと仙台高等技術専門校にある人材開発センターが仮にですけども、令和6年度から使用できなくなるということを想定して、技能検定の実施に係わる課題の調整を行っていただいているというところでございます。この3月の月上旬に関連団体等で白石高等技術専門校の実習棟の視察も行っていただいたというところでございます。お話のございました技能検定用の資材の保管の扱いが課題になっているわけですけども、技能検定の円滑な業務運営を図るために、今後協会さんと相談しながら、十分に調整を図っていきたいと考えております。以上でございます。</p>
小林委員	何卒よろしくお願ひいたします。以上でございます。

田邊会長	<p>はい。ありがとうございました。 それでは次に、谷垣委員からお願いできますか。</p>
谷垣委員	<p>はい。高専の谷垣です。 最近地震がありまして、うちの学校も大きな被害はなかったのですが、外壁のタイルが結構落ちてきて処理が大変ということがありました。今回、外観については、特に資料にないようなのですが、12ページにありますように、本当に災害に強いということを第1に考えていただきたいなと思います。もちろん、建物自体は地震に十分強いものを作ると思うのですが、そういった外観面まで含めて災害に強く、維持管理しやすい、長期間使え、なおかつみんなが快適に使える建物というものを大事にしていきたいなと思いました。 それから、うちの学校の話になるのですが、本当に技術の進歩が早くて、高額な実験機器とかを購入してもすぐに時代遅れになってしまって、また新しいものを買わなきゃいけなくなったりして、お金がかかって大変だなと感じているところなのですが、18ページの方に、機械エンジニア科と電子制御技術科は機器を共有して使用するという記載があって、是非、機械エンジニア科と電子制御技術科だけではなく、機器を共有できる部分というのは、他科にもあるのかなと思ったので、いろんな科が1つの校にまとまったことのメリットとして、機器を共有できるということがあると思うので、最新の時代に即した設備とかを導入するためにも、共有できる部分は共有するというところで、コストカットをしてというところを配慮していただけるといいのかなと思いました。以上です。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。 災害面の話と、できるだけ共有などでコストカットを図って技術の進歩があれば、それについていけるように対応をしていただくということかなと思いますが、いかがでしょうか。事務局の方から。</p>
神所技術補佐	<p>事務局の神所といいます。 災害対策について、外観面も配慮して、対策を練ってほしいというご意見ありがとうございます。具体的には営繕課等と相談しながら、詳細の方は詰めて参りたいと思います。 5校が1校になりまして、訓練科が増えたことで、共有できる訓練機械もございます。今想定しているのは機械エンジニア科と電子制御技術科の大きな機械ですとか、例えば高価な機械のNC旋盤やマシニングセンタ等も訓練生が共有して使えるようにしていきたいと考えております。その他、機械エンジニア科、サインデザイン科、総合建設技術科、木工科等で使うレーザー加工機という機械もございます。これも大きなものから小さなものまで機械はあるのですが、大型の機械を入れまして、共用で使いまして、よりよい訓練を実施できるよう整えていきたいと思っているところでございます。</p>
田邊会長	<p>はい。よろしいでしょうか。 それではですね、次に吉野委員お願いします。</p>
吉野委員	<p>ポリテクセンターの吉野です。よろしく申し上げます。 今回のこの計画案ですが、私は今年から委員になったものですから事前にどういう検討がされていたのかわからなかったのですが、すごくよくまとまっている計画かなという印象を持ちました。それで、かなり大規模な計画なのですが、特に大きな問題はないのかなと思います。まずはこの計画通りにスムーズに進めていただくということをお願いしたいと思います。 もう1つがこれを進めていく段階で移設とかいろいろとあるので、訓練計画ができなくなるということはないのかと少し心配しております。やはり、各地域で今までやった訓練などもできなくなってしまうわけですから、訓練機能が低下してしまうおそれもあるのかなと思います。なので、利便性とか訓練機能の低下につながらないように計画を組まれていると</p>

	<p>思うのですが、そういう部分が心配だなと考えております。</p> <p>それから、先ほど人材開発センターというお話が出たのですが、人材開発センター自体は技能検定を実施しているところなのではないでしょうか。在職者訓練もやっているのでしょうか。人材開発センター自体の機能がどのようなものなのかわからなかったのが、教えていただきたいと思いました。それで、技能検定の実施については、おそらく県の職業能力開発協会さんの方が主にやっていることになるのではないかと思います。その実施をここでやっているという理解でよいでしょうか。県の職業能力開発協会さんがここに移ってくるわけではないですね。</p> <p>それと、白石に工事期間中だけ一時的に人材開発センターの機能を移設し、工事が終了したら戻ってくるという理解でよろしいでしょうか。技能検定のことについても、実施の機能が低下しないように計画をされていると思いますが、そのところを確認したいと思います。よろしくをお願いします。</p>
田邊会長	<p>それでは、これについては、事務局の方からお願いできますか。</p>
佐藤補佐	<p>はい。ご意見ありがとうございます。</p> <p>まず、1点目の計画どおり進むかということでございますが、これから営繕課とともに、プロポーザルから基本設計、実施設計、建築と7年ぐらいかけていくわけですので、ゴールを見据えながら遅れないように努力していきたいと考えてございます。</p> <p>また、移設等に伴いまして、訓練の機能が低下しないかということもおっしゃる通りだと思いますので、そこも気を付けながら移設等も配慮していきたいと考えてございます。</p> <p>2点目の人材開発センターでございますが、こちらは委員もおっしゃられたとおり、主に技能検定の場となります。あとは在職者訓練もそこを使いながらやっているということでございます。人材開発センターを一旦解体するわけでございますが、その間、白石に移れるかどうかということは今のところ考えてございます。</p> <p>仮に、白石に行った後ですが、仙台校敷地内に新しく人材開発センターを作りますので、そちらの方ができれば、また白石から機能が移ってくるというようなことでございます。以上です。</p>
吉野委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
田邊会長	<p>はい。よろしいでしょうか。</p> <p>それではですね、次に内藤委員お願いできますでしょうか。</p>
内藤委員	<p>内藤でございます。</p> <p>まず、印象でございますけれども、みなさんおっしゃるとおり、非常によくまとまっているなど感じております。</p> <p>1つお尋ねしたいのですが、プロポーザルで業者選定をされるということについて、業者の理解が果たしているかがとか、あるいは設備機器については時代遅れにならないようにとか、そういうご意見もあったかと思います。実際のところ設計するにあたっては、大型の機器とかも図面上には入ってくるかと思うのですが、プロポーザル方式で設計業者を選定する際に、その辺の構造物と内部の機器なども含めて企画競争されるのか、あるいは機器については別途調達をされて、調達する場合は買取りにするのかレンタルにするのか、まだ計画の段階なので、そこまでは詰めてらっしゃらないと思うのですが、もしわかれば、お聞かせいただければと思います。</p>
田邊会長	<p>はい。では事務局からお願いします。</p>
佐藤補佐	<p>建物の設計と機器のお話だったと思います。建物の設計については、プロポーザル方式で設計業者を選んだうえで、設計に入るという流れでございます。こちらの方で考えている必</p>

内藤委員	<p>要な機器というものは、計画の中に主なものは入れており、必要な面積は確保しているということでございます。具体的に何を入れるかということでございますが、それにつきましては、今後、施設の設計等と合わせまして必要な機器を選定しながら購入していきたいと考えておりますので、別々に調達するという形になろうかと思えます。</p> <p>基本的に今おっしゃられたことを十分理解しました。求める人材とか育成すべき人材について、前の方に資格取得の関係とかお示しになっているのですが、地域ニーズとか企業ニーズとか的確に押さえていただいて、どの程度の水準に合わせるのか、それらを考慮しながらご検討いただければと思います。私からは以上です。</p>
田邊会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>以上で皆様方から一通りご意見を伺ったのですが、他に何かご意見、ご質問等ございませんか。よろしいでしょうか。</p> <p>基本的にご意見を伺ってしまして、この計画につきましては、トータルで見て、よくできた計画であって、基本計画を反映しているなという認識だったかと思えます。ただ、アドバイスという意味を含めまして、1つは実施面について、プロポーザルのやり方とか、その際のコスト面の配慮とか機能を重視してほしいとか、そんなアドバイスがあったのではないかと思います。それから2つ目は運営面ということで、将来ハードだけではなく、運営していく上でソフトにも配慮して、そのためには、学生とか卒業生へのヒアリングなども含めて、頑張っていってほしいなというご意見もあったかと思えます。ご意見ありがとうございました。</p> <p>そういうわけで、ただいまいただきましたご意見等を参考に、事務局において検討の上、できる限り計画に反映いただければと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これで議題を終了させていただきます。円滑な会議の進行にご協力いただきありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p>
渋谷総括	<p>田邊会長ありがとうございました。それでは、次第の「3 その他」になりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは事務局から連絡事項等について説明いたします。本日の審議会で委員の皆様からいただいたご意見を参考に、今月末までに本計画を策定することとしております。策定しました計画書につきましては、追って各委員の皆様へ送付させていただく予定でございます。</p> <p>また、本日の会議の議事につきましては、県のホームページで後日公開したいと考えております。議事録は事務局で作成し、各委員の皆様へ確認、了承いただいたものを公開したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それではこれもちまして、宮城県職業能力開発審議会を閉会いたします。委員の皆様、本日は大変お疲れ様でございました。</p>